

かんがえる



アメリカ人やメキシコ人、アジアから来た子とバスケットをしました。英語がもっと話せたらよかったです

アメリカ人やメキシコ人、アジアから来た子とバスケットをしました。英語がもっと話せたらよかったです

アメリカにつくと、時差ボケがすごくて、しばらく続きました。アメリカは道のところどころにバスケットのリングがあって、とてもなじみやすい環境でした。でもアメリカは、おかしはおいしいけれど食べ物はいまいちで、お茶がないし、コーラもペプシしかありませんでした。かんじんのバスケットは、みんな身長が高く、動きも速い上にシュートもうまいという、日本ではあまり見ないような特長をもつ選手が多く、その中でプレーすることで、新しい

かも心配でした。けれど、飛行機で仲間になって、人見知りがなくなってきました。

二つ目は、友達ができたことです。短い間でも笑って話せる友達が多かったのでうれいです。メキシコからきた子やアメリカの子となかよくなることができました。

三つ目は、バスケットのプレーです。自分はこれまで、身長だけをたよりにしたプレーをしていました。でも、アメリカでは自分は大い方ではなく、速さも真ん中ぐらいだったので、体だけをたよりにするプレースタイルを見直しました。これからは、アメリカに行かせてくれた親やコーチに感謝をして、バスケットに取り組みたいなと思えました。

アメリカでバスケットボールの練習



ヒヨコマークは1、2年生がたのしめるコーナーの旨じるしです。

走れ! 毎小特派員

今週の特派員



東京都文京区立柳町小6年

鳴海敢太さん

プレースタイルを学ぶ

ぼくは、アメリカのニューヨークへバスケットボールをしに行きました。いつも活動する文



ニューヨークのまちを観光しました。テレビでみたことがある場所ばかりでした

京「ブギーズ」のコーチに、べつのチームを教えてもらい、参加しました。初めて会った人たちと海外へ行くことが不安で、アメリカで会話ができるの

感覚を得ることができました。アメリカで特に心に残ったことが三つあります。一つ目は、プロの選手に会えたことです。NBAというアメリカのプロのトップリーグに属している選手と会うことができ、「ブルックリン・ネッツ」のミケル・プリッツス選手やWNBA(全米女子バスケットボール協会)ニューヨーク・リバイのサブリーナ・イオネスク選手とあく手ができました。

◆特派員レポート募集

みなに知らせたい出来事や体験したことをレポートして送ってください。【応募方法】字数は400~600字(原稿用紙1~2枚)。写真やイラストを2~3枚と顔写真をつけて、郵便番号、住所、名前、学校名、学年、電話番号を書いて次のあて先に送ってください。【あて先】〒100-8051(住所は書かなくても届きます)毎日小学生新聞特派員レポート係。電子メールはmaishou@mainichi.co.jp 掲載された人には毎小グッズを差し上げます。※掲載文の著作権は毎日新聞社に帰属します。投稿者本人の利用は妨げません。作品は毎小の電子版にも掲載します。

編集部から あなたの疑問を募集しています

身の回りの素朴な疑問はありませんか? モヤモヤしているようなことはありませんか? そんなあなたにすっきりしてもらうため、冷たい氷を温めて解かすように、その疑問について調べてお答えします。はがきに疑問を書いて、〒100-8051(住所はいりません)毎日小学生新聞「疑問氷解」係へお寄せください。